

第17回アジア競技大会(2014/仁川)応援レポート② 2014/9/27(土)

大きな期待として、Gyeyang Gymnasium（桂陽体育館）の階段を登るのは「山口茜さんの準決勝、決勝の応援のため」としたかった気持ちをふっきり、今日は高橋礼華・松友美佐紀ペアの女子ダブルス決勝の応援に来ました。

【女子シングルス山口茜さんは1回戦 マレーシアのTEE Jing Yiに2-0で勝利
9/25の2回戦 地元韓国のBAE Yeonjuに、完全awayの中で頑張りましたが、惜しくも1-2で敗退。】





会場に入ると女子ダブルス決勝の前に、男子ダブルス準決勝の2試合が同時進行で行われていた。韓国のYOO Yeonseong & LEE Yongdaeペア対マレーシアペアと、韓国のKIM Sarang & KIM Gijungペア対インドネシアペアである。

まず、驚いたのは地元韓国ファンの熱狂ぶり、席が空いたとみるや指定席も関係なく、どんどんコートに近い席を占有する強引さ。応援コールもリズムをとりながらの「テーハミング！（＝テーハミングク：大韓民国）ドドット ドンドン、テーハミング！ドドット ドンドン」の大合唱。椅子がちやちなせいもあるが、韓国選手がポイント決めるたび、地震のような嫌な揺れが、おけつを襲う。

この完全awayの熱狂の中、韓国選手から第1セットをもぎ獲った山口さんは素晴らしい。よく頑張ってくれました。そんな試合の時にこそ、応援団を引き連れて、少しでも雰囲気や空気を変える応援をしなければならなかったと後悔してます。ごめんなさい、茜さん。



そして、いよいよ高橋礼華・松友美佐紀ペアの金メダルへの挑戦。対戦相手はインドネシアペア。バドミントンはインドネシアの国技ともいえる人気競技で、日本で言えば柔道のような存在らしく、この試合でも日本チームはawayな空気につつまれてしまった。「インドネシア！ドドット ドンドン」の応援コールと太鼓の音、さらにはインドネシアの歌を大声で、がなりたてる。組織力はないものの、一人一人が熱狂的に大きな音をだし、地元も味方につけていった。観客席がとても近い国際大会で、選手が集中力を維持するのは並大抵ではないことが肌感覚として理解できた。

結果は高橋・松友ペアは銀メダル！おめでとうございます。！次回、金、期待してます！



試合中、山口茜さんと福井 烈さん（日本オリンピック委員会理事・選手強化副本部長）を関係者席に発見！
試合後にご挨拶へ。

常務理事 鶴さんから、山口さんへねぎらいの言葉と激励。山口さんは既に次を見据えて始動していると、笑顔でこたえてくれました。
（選手村のご飯はおいしいとも）

福井さんからは、「今回、完全awayの環境・空気の中で戦ったことで、山口さんのハート（メンタル）はまた一段と進化・進歩している。次はさらに強い山口になっていますよ！」と太鼓判をいただきました。

我々は次回awayでの試合にはドラムか、ラップか、合唱団か、とにかく空気感を変える圧力のある応援をします！！

